



本校教育目標：【自主】自ら進んで学ぶ生徒【寛容】明朗で思いやりのある生徒【挑戦】健康でたくましい生徒

（重点目標）自らよく考え、やり抜く生徒 ～夢の実現～

原町三中だより

令和2年3月17日（火）
第39号
発行責任者
校長 鈴木 太
電話 22-3802

第59回卒業証書授与式を挙行了しました

新型コロナウイルス感染症の拡大により、実施が危ぶまれていた卒業式でしたが、3月13日（金）に規模を縮小して実施することができました。

保護者の参加を見合わせる学校も多い中で、多くの保護者の皆様のご臨席のもと、第59回卒業証書授与式を挙行できましたこと、たいへん嬉しく思います。

在校生が参加できなかつたため、入退場の音楽が吹奏楽部による録音された演奏となったり、送辞・答辞ではなく

「卒業生挨拶」のみとなったりと、内容を変更して実施しました。在校生による送辞・式歌がなかったことは卒業生にとっては寂しかったようです。

また、教育委員会挨拶とPTA会長様からの来賓祝辞は、要項をもって代えさせていただきました。

「卒業生挨拶」では、京谷七海さんが「入学以来、私たちの成長に関わってくださった全ての皆様に感謝し、我が母校原町第三中学校の今後益々のご発展と、教職員の皆様、本来この会場にご出席くださるはずだったご来賓の皆様、在校生の皆さんのご健康とご多幸をお祈りし、あいさついたします」と卒業生を代表して挨拶を述べました。

「式歌」は卒業生が選んだ「ひらり、」という曲を歌い、間奏部分で佐藤颯紀さんが感謝の言葉を述べました。最後に、教職員と保護者の皆様も起立して、校歌を斉唱しました。

今年度の卒業生は、東日本大震災及び原発事故により、幼稚園の卒園式と小学校の入学式ができませんでした。義務教育最後の卒業式が、ささやかではありましたが、思い出に残るいい卒業式だったと感じていただければ幸いです。



卒業生の皆さん

式次第

- 1 開式のことば
- 2 学事報告
- 3 卒業証書授与
- 4 校長式辞
- 5 教育委員会挨拶
- 6 来賓祝辞
- 7 祝電披露
- 8 卒業生挨拶
- 9 式歌
- 10 校歌斉唱
- 11 閉式のことば



卒業生入場



卒業証書授与



校長式辞



卒業生あいさつ



式歌「ひらり、」



卒業生退場

令和元年度 南相馬市立原町第三中学校 第59回卒業証書授与式 式辞

例年になく暖かい冬が過ぎ、阿武隈の山脈から吹き下ろす風にも 一段と春を感じる今日の佳き日、感染症拡大防止のため、保護者の方々の参加を見合わせる学校も多い中、多数の保護者の皆様のご臨席のもと、第59回卒業証書授与式を挙げていきますこと、たいへんうれしく思います。

さて、ただ今、卒業証書を手にした25名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今日は、中学校生活最後の日であると同時に、この三年間に培ってきた力を土台にして、さらに高いところを目指すための旅立ちの日でもあります。卒業を機に、これまでの三年間を省みるとともに、これからの人生に向けて覚悟を新たにすることは、たいへん意義深いことだと考えます。

卒業生の皆さんは、学校の中心となる最上級生として、文化祭をはじめとする学校行事や生徒会活動を盛り上げ、部活動や文化活動で活躍するなど、素晴らしい成果を残しました。一年間皆さんと共に過ごし、何事にも真剣に向き合う誠実さ、授業や部活動に対するひたむきさにいつも感心していました。

皆さんの輝かしい門出にあたり、夢についての話をしたいと思います。

先日の新聞にこのような記事がありました。猪苗代町にある野口英世記念館で、ガーナから玉座の贈呈式があったという記事です。ガーナと猪苗代町との交流は1993年に始まり、歴代の大統領が猪苗代町を訪問しており、今年度の東京オリンピック・パラリンピックでは、猪苗代町はガーナのホストタウンとなっています。この度贈呈された玉座は、王族に贈られる特別なもので、日本へは天皇陛下が皇太子時代に寄贈して以来、二例目だということです。

野口英世が黄熱病の研究に打ち込み、ガーナで亡くなったのは1928年。ガーナの人々にとって、自分たちのために命がけで尽くしてくれた野口英世は、100年経った今でもガーナ国民の英雄なのです。

彼は、猪苗代の故郷を離れるとき、家の柱に「志を得ざれば 再びこの地を踏まず」と刻んだそうです。この志とは「医者になること」だったのでしょくか。その時はそうだったのかもしれない。しかし、その後の彼の人生をみると、やけどでくっついた手に医学によって希望をもらったように、医学を通じて人を助けたい、人の役に立ちたいというのが夢だったのではないでしょくか。人を助けたい、人の役に立ちたいという夢に失敗や終わりなどあるはずがありません。夢の途中で亡くなった彼の大きな夢は、時代を越えて後の世代まで確実に引き継がれています。

大きな夢というのは、自分だけではなく人のためにもなること、よりよい社会を目指すこと、時代を越えて次の世代にまで託すもの。野口英世はそれを教えてくれています。卒業生の皆さんには、長い人生をかけて、大きな夢を追い続けてほしいと思います。

医療の発達、栄養状態や衛生環境の改善などによって、人生は100年時代を迎えていると言われています。100歳まで生きることが普通になれば、約20年学び、約40年働くといった年齢による区切りがなくなり、人生の選択肢が多様化すると予想されています。

100年生きるとした場合、それを1日24時間に置き換えると、15歳の皆さんは、午前3時36分の位置にいることになります。まだ日の出前、一日の活動を始めるにもだいぶ早い時間です。夢をもつのも、何かを新たにやり始めるのもこれからです。朝日が昇るように、大きな夢を掲げ、失敗を怖れず、大いにチャレンジしてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお慶びを申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の前途の健やかなることをお祈りし、これまで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝を申し上げ、式辞といたします。

令和2年3月13日

南相馬市立原町第三中学校長 鈴木 太